

4. 環境保全行動の実態(問4 - 1、問4 - 2)

「ゴミの分別」「ビン、カン、ペットボトル類の分別」「新聞、雑誌の古紙回収」など、ルール化された「リサイクルのための分別収集への協力」に関する環境保全行動や、「節電」「冷暖房の省エネ」など実施することにより個人にも経済的メリットのある環境保全行動はよく行われているが、「環境保護団体への寄付」や「地域の緑化活動」、「地域の美化活動」、「環境保護団体の活動」等への参加といった能動的な環境保全意識に裏づけられた行動に関しては、あまり行われていない。

前回調査と比較すると、全体的な傾向は変わらないが、環境への負荷の少ない製品やサービスの選択といったグリーン購入に関する行動の実行率はやや上昇がみられる。

環境基本計画の中で、国民に期待される役割として掲げられた取組の分類ごとに結果をみると以下の通り。

人間と環境との関わりについての理解

訪問地での環境配慮は定着しているが、「余暇には、自然とふれあうように心がけている」の実行率(4段階の回答のうち、「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計)は40%にとどまっている。前回調査と比較すると、全体的にはほとんど変化がみられない。

日常生活に伴う環境への負荷の低減

実行率が高かったのは、

- ・「ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(91%)
- ・「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」(87%)
- ・「自動車を使用する際には、不要なアイドリング、空ぶかし、急発進などをしないようにしている」(78%)

などである。また、実行率が50%前後のものとしては、

- ・「洗剤使用の適正化に努めている」(51%)
- ・「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」(52%)
- ・「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」(52%)

などがある。一方、実行率が低かったのは、

- ・「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している」(27%)
- ・「買い物時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(30%)
- ・「地球にやさしいエコマークなどのついた商品を購入することを心がけている」(31%)
- ・「物を買うときは環境への影響を考えてから選択している」(33%)

などである。

前回と比較すると、多くの実行率が低下する中で、前回実行率が低かった、「物を買うときは環境への影響を考えてから選択している」「地球にやさしいエコマークなどのついた商品を購入することを心がけている」の実行率が高まったことが特徴といえる。

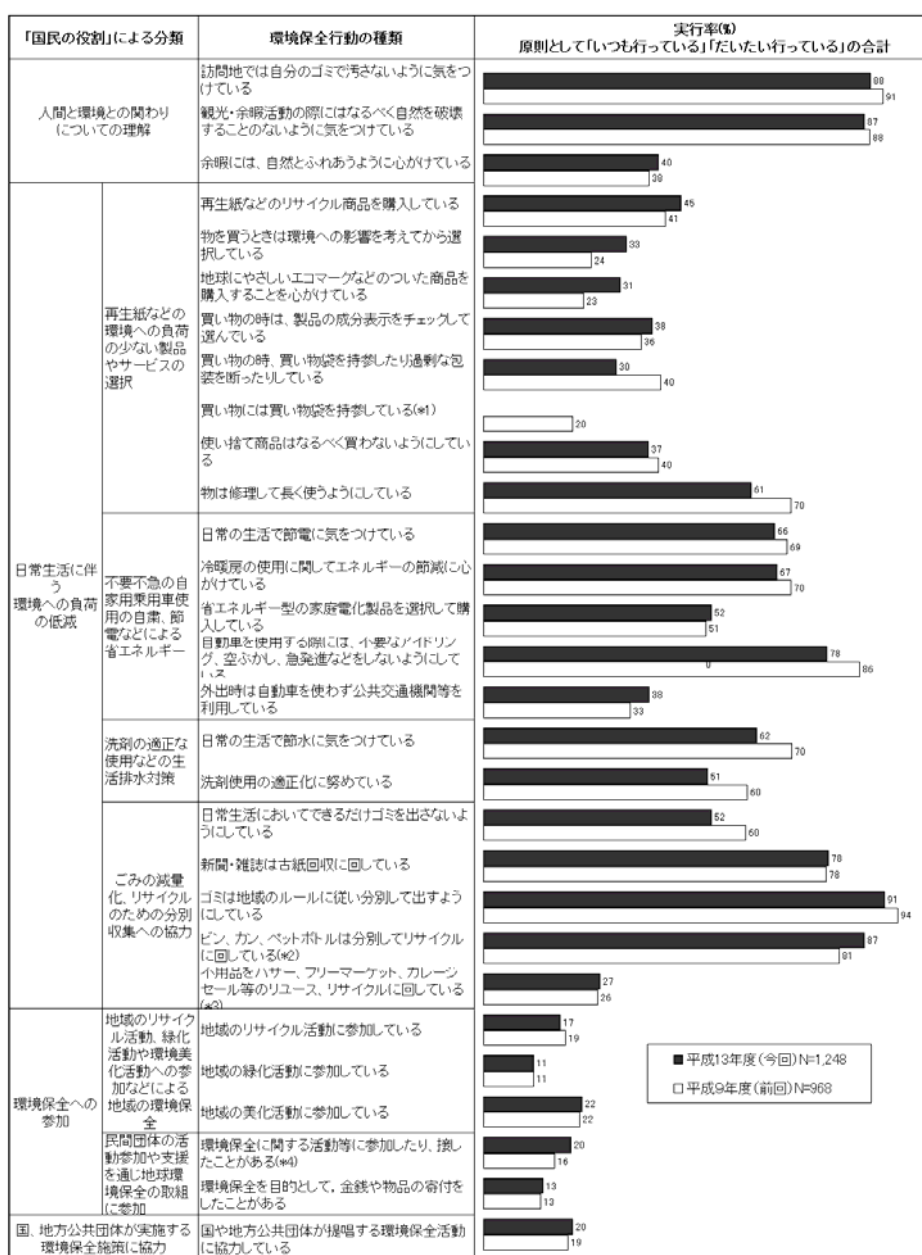
環境保全活動への参加

地域のリサイクル活動、美化活動、緑化活動への参加や、環境保護団体への参加や寄付については、おしなべて3割以下の実施で、その傾向は前回と変わっていない。

国、地方公共団体が実施する環境保全施策に協力

実行率は20%で、前回とほとんど変化はない。

図表5 環境基本計画に掲げられた「国民の役割」に関する環境保全行動の実施状況



(*1) 前回のみの質問

(*2) 前回質問は、「ビン、カン類は分別してリサイクルに回している」

(*3) 前回質問は、「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセールなどのリサイクルに回している」

(*4) 今回の数字は「行ったことがある」割合、前回の数字は「いつも行っている」「だいたい行っている」ときどき行っている」の割合の合計

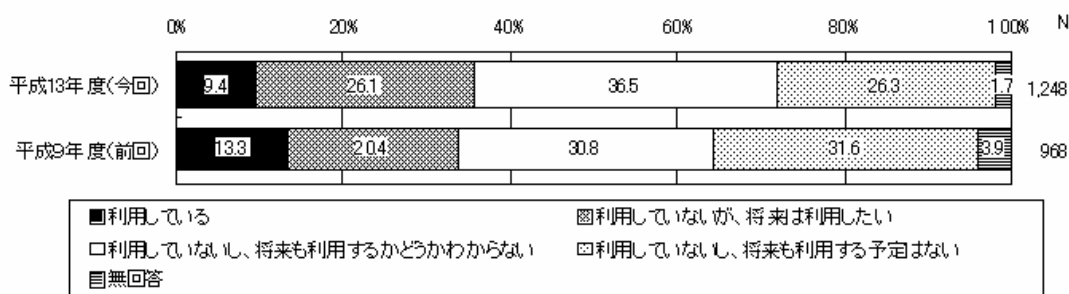
5. 住宅設備・自家用車の環境への対応（問4 - 3）

居住する住宅の太陽熱温水器、太陽光発電などの設備の利用状況と利用意向を聞いたところ、太陽熱温水器については、利用している人は9%、今後の利用意向を持つ人は26%（図表6）太陽光発電については、利用している人は0.6%、今後の利用意向を持つ人は31%（図表7）となった。太陽熱温水器、太陽光発電のどちらも、前回と比べ利用意向を持つ人の割合が増加した。

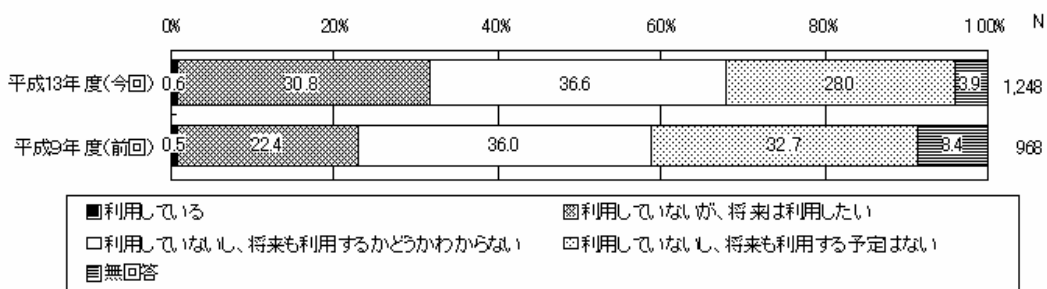
また、現在の住宅の構造が「高気密・高断熱住宅である」という人は20%、今後高気密・高断熱住宅住宅にしたいという人は19%であった（図表8）

さらに、低公害車の保有・購入時の検討意向を聞いたところ、「すでに保有しているか発注済み」という回答は7%、今後、「購入の際には検討の対象に入れる」は32%となった（図表9）前回と比較して、「すでに保有・発注済み」の層が増加した。

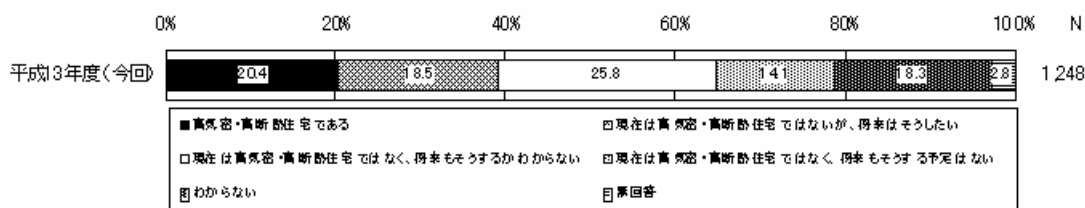
図表6 太陽熱温水器の利用状況（全体、時系列）



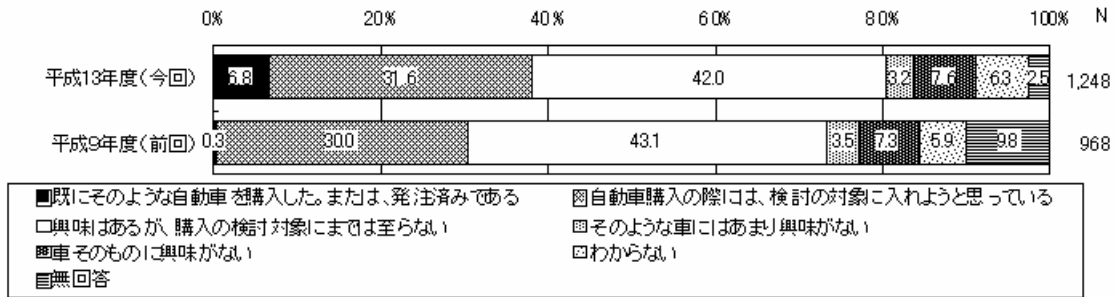
図表7 太陽光発電の利用状況（全体、時系列）



図表8 住宅の構造（全体）



図表9 低公害車の購入について（全体、時系列）



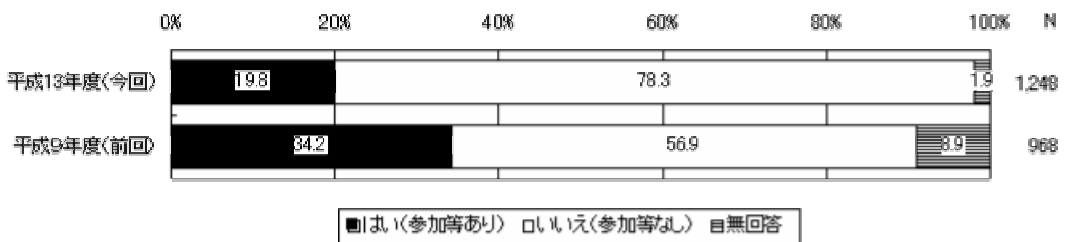
7. 環境保全に関する活動を行う団体への参加（問5）

環境保護団体や地域の団体の環境保全活動への参加・接触の有無を聞いたところ、「はい」という回答が20%を占めた（図表10）。

参加の形態としては多いのは、「イベントへの参加」「セミナー・講演会への参加」「署名」（3割以上）で、「寄付」「会費の支払い」は1割程度と少ない（図表11）。前回の活動の中では「署名」が最も多かったことと比べると、参加内容の変化がうかがえる。

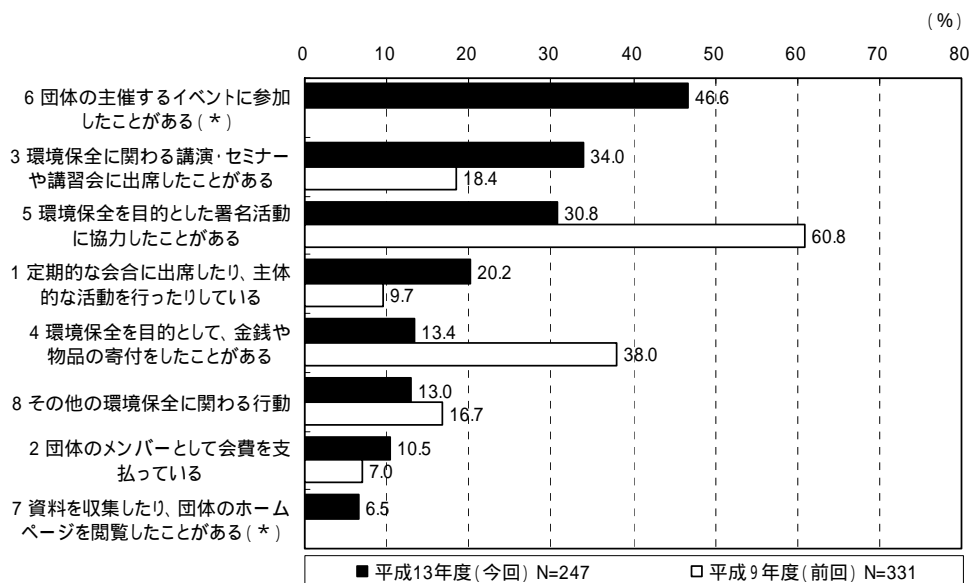
参加する活動の領域は、「リサイクル・廃棄物」が特に多く、「地球温暖化防止」「大気環境保全」「砂漠化防止」などは少ない（図表12）。日常生活との関連が大きい領域での参加が多く、あまり身近でない環境問題、個人で取り組みにくい環境問題についての活動参加は少ない傾向がある。

図表10 環境保全に関する活動を行う団体への参加



注）本質問は、前回の調査とは質問の内容が大きく異なる（前回の調査では複数回答方式であり、前回の調査結果において「参加等なし」以外を回答したものは、全て「参加等あり」とした）。

図表 1 1 環境保全団体等への参加の内容（全体、時系列：複数回答）



注) 1. *印のものは、今回の調査より追加した項目を示す。
 2. 平成9年度の結果は、平成13年度の結果と条件が同じになるよう内容を修正した。

図表 1 2 環境保全団体等への参加の領域（全体：複数回答）

